

【天国への手紙

2023年5月27日放送分】

愛用品

ラジオネーム：さっち

「桜の季節が終わったら」と先送りになっていた部屋の整理を、ぼちぼち始めました。喘息の息子のために、郊外に引っ越そうと決めてあなたが建ててくれた平屋の一軒家。よろちへローンの返済が終わりに、息子も巣立ってからは、あなたと私だけでは広すぎる空間に、ゆったりと暮らしてきましたね。・・・短い時間だったけど。

会社まで往復3時間、残業が続く日も、天気が悪い日も小言を言わず、勤め上げましたね。本当に本当にお疲れ様でした。ここに越えてきてから、私なりに節約しようと、あなたと息子のお弁当を作っていたけど、更年期もあってか、すっきり起きられない私を見て、息子の大学進学を機に、「僕のために早起きしなくていいよ」とお弁当作りを卒業しましたね。お弁当位は作ってあげたい、という思いとは裏腹に、私、あの頃は何をすることもおっくうで仕方がなかった。そんな様子をそっくう見ていられたあなたのやさしさを、「今更ながら感謝しています。決して会話の多い夫婦ではありませんでしたが、あなたが気づいてくれたらね」「心配」のやさしなもの、私には心地よかったです

す。ありがとうございます。

あなたは、持ち物も大事にしていましたね。どんなに帰りが遅くても、毎晩お気に入りの革靴をピカピカに磨いていた後ろ姿が今も忘れられません。時計もそう。結婚の記念にと贈り合ったものを、生涯使い続けましたね。さすがに針の動きがおかしくなった時は、買い換え時だねと言ったのに、専門店でもオーバーホールをして。「愛着があるから」と愛おしそうに左腕につけていましたね。

だから、部屋の整理といっても、物は多くありません。それでも、あなたの「愛着」がこもった品々を手にとって、あなたを感じながら、あなたのように大切にしてくれる人に使ってもらうほうがあなたは喜ぶかなと思いついになりました。どうですか？

「これだけは君の手元に置いておいてよ」といっ品があったら、サインを送ってくださいな。

わい、何から始めようか？

リクエスト曲

＜ じゃあわせのランプ / 玉置浩一 ＞ 3分58秒